



たわれじ

自分の目標に向かって一歩ずつ

プログラム責任者 安部 睦美

新年、明けましておめでとうございます。

研修医の先生たちはどんなお正月でしたでしょうか？コロナの収束もまだ見えてこない毎日です。先生方は新型コロナウイルス感染症で当初は十分な研修を受けることができず大変だったことと思います。不安も大きかったのではないのでしょうか？規制もいろいろあり、同期とのコミュニケーションもなかなかとることができず... しかしそんな中でも、

しっかりと医師としての地固めを各々ですることができているように見受けます。100年に一度の未曾有な災害に出会ってしまいましたが、医師としていつもはできない経験をして、リスクマネジメントが身についたのではと思っています。今度は独り立ちした医師として自分の目標に向かって歩いてください。

「物事を成し遂げさせるのは希望と自信 ～ヘレンケラー～」

今だからできること、そして今しかできないこと、ピンチをチャンスに変えて希望と自信をもって未来を作っていくてください。



臨床研修病院としての役割

地域の中核病院としての機能を有する当院において、最新の医療施術及び情報を提供し、病院全体として医師の臨床研修を積極的に支援する。

初期臨床研修

理念

プライマリ・ケアから高度な医療まで幅広い経験を積むとともに、様々な医療従事者と密接な連携のもとで多くの患者に接することにより、医師として必要な人格を育み、広く社会の医療福祉に貢献できる人材を育成する。

基本方針

- ① 臨床医として必要なプライマリ・ケアの基本的な診療能力（知識・技能・態度）を習得する。
- ② 人としても信頼される人格・素養を身につけ、思いやりの心を持って患者およびその家族に向き合い患者中心の全人的医療を行える。
- ③ チーム医療の一員としての役割を理解し、他職種と協働して診療することができるコミュニケーション能力を身につける。
- ④ 医療安全の本質を理解し、実践する能力を身につける。
- ⑤ 地域の中核病院としての役割を理解し、健康の保持、疾病の予防から社会復帰に至る医療全般の責任を有することを自覚し、行動できる。

病院長と研修医との意見交換会を開催しました

今年度も病院長との意見交換会を行いました。年1回の恒例行事となっています。研修医が日頃感じていること、要望などたくさんの意見が出ました。

今回いただいた意見、要望等にできるだけお応えしていきたいと思っています。

地域医療研修のための協力施設合同説明会に参加しました

毎年、松江赤十字病院の皆さんと共同で開催しています協力施設による合同説明会を開催しました。今回もWebでの開催となりましたが、たくさんの協力施設の先生方にご参加いただき、とても充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございました。引き続き、地域医療研修でお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。



HIV研修会に参加しました



「HIV感染症の治療とケア」についての研修会に参加しました。専門の看護師さんからの話を聞き、HIVについての理解も深まり、大変有意義な研修でした。この研修会で学んだ知識を今後の診療に活かしていただけたらと思います。

緩和ケア研修会に参加しました

松江市立病院緩和ケア研修会が開催され、1年次研修医10名が参加しました。

グループ演習やロールプレイング、ディスカッション等を通じて緩和ケアについて学び、とても実りある時間を過ごしました。また、多職種の方々と交流できたことも大きな収穫のひとつであったと思います。

今回の研修で学んだことは、きっと今後の診療に生かせることでしょう。

みなさん。おつかれさまでした！



学習発表してきました！

1年次研修医 榎原侑子

この度、第11回山陰呼吸器臨床セミナーと第65回日本呼吸器学会中国四国地方会にて「器質化肺炎との鑑別を要した浸潤性粘液性腺癌の一例」という演題で発表させていただきました。学会発表に関してはすべてが初めてのことで、準備から本番まで戸惑うことは多々ありましたが、なんとか無事2回の発表を終えることができました。毎日の診療で忙しい日々ですが、一つの症例を通して深く学んだ今回の経験を、今後も活かしていきたいなと思います。このような貴重な機会を与えてくださり、熱心にご指導いただいた呼吸器内科新井先生をはじめ、アドバイスをいただいた諸先生方にもとても感謝しています。これからも残る研修をもっと頑張っていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



地域医療研修の現場から

奥出雲町立 奥出雲病院



2年次研修医 神安 一樹

僕は地域医療研修として、奥出雲病院で研修させていただきました。

まず感じた事は、外来患者さんが他の病院と比べて少ないなと思ったことです。人数が少ない分一人一人丁寧に接することができると思えました。

次に感じたこととしては、訪問診療があるおかげで、患者さんが退院された後もその患者さんの自宅での様子を見ることができるということです。先生のお話の中で、今の入院の状態ではとても家で生活できないと思っていた患者さんが、意外にも退院した後生活されていた姿を見て驚いたと言う話がありました。入院している状況と自宅での状況では、やはり患者さんの中でも気持ちの面や住み慣れた面で違いがあると思いますし、そういった事を身近に感じれるのは訪問診療の良いところだなと思いました。

医療以外にも、奥出雲で1ヵ月生活させていただいて、奥出雲という街の素晴らしさに気づくことができましたように思います。研修当初に半日ほど奥出雲の案内をしていただく機会がありました。電車に乗ったり製鉄について学ぶなど、今まで自分が行ったことない場所や、したことのない経験、またその地の歴史などを教えていただくことができ、勉強になりました。それ以外にも日々の暮らしの中で、外を歩くだけでも川の音や自然の匂いを感じることができ、車で通り過ぎるだけでは見つけることのできない良さに気づくことができましたように思います。

地域に密着した病院で研修させていただき、一人一人に寄り沿った医療や、病院外での活動についても学ぶことができ、とても良い経験になりました。

今後は奥出雲での経験を活かして日々の診療に携わっていきたいです。

飯南町立 飯南病院

2年次研修医 田部 博山

地域医療研修という形で10月の1か月間、飯南病院で研修させていただきました。地元が近いということもあってとてもアットホーム感のある環境での研修となりました。

飯南病院は飯南町唯一の病院であり、開業医が一人もおられない地域です。当院を含めた松江医療圏での医療とは異なり、より地域住民の方との距離感が近く、地域住民の健康や予防に徹することはもちろんですが、日々の生活に目を向けたり、病院受診することができない方への往診など総合診療としての医療現場を身をもって感じることができました。また外科志望ということで、外傷の初期治療に多く携わらせていただきましたが、「インシシ外傷」という松江では滅多に遭遇することのない症例も経験することができました。

わずか1か月という短い期間でしたが、総合診療の在り方・へき地医療の実情・地域ならではの医療について内容の濃い研修となりました。お世話になった先生方、スタッフの方に心から感謝申し上げます。

医療だけでなく、飯南町は美味しいステーキや蕎麦などがいただけるお店があったり、雪が積もればスキー・スノーボードが楽しめる琴引フォレストパークがあります。

未だに「飯南町ってどこ?」「魅力があるの?」と思われる方は是非足を運んでみてはいかがでしょうか?



松江保健所での研修報告



2年次研修医 鈴木 知子

10月に松江保健所へ2週間研修に行ってきました。多角的な視点から医療をみたいと思い保健所を選択しました。業務内容が市民の生活を支えるため多岐にわたっており驚きました。

松江保健所には、総務課・心の健康支援課・地域包括支援センター・医事難病課・健康増進課・食品衛生課・環境保全課・薬事感染症対策課・動物愛護推進課があり、研修ではほとんど全ての課の業務を見させていただきました。他にも児童相談所、心と身体の支援センターなどに出向き、話を聞くことができ多くの方に大変お世話になりました。具体的な研修内容としては、環境保全部の研修で松江のエコクリーンに見学に行きました。家庭ごみを自己搬入できるため、利用したことがある方も多いと思いますが、実際にごみが処理されていく過程や環境にどういった形で配慮しているかを学ぶことができました。他にも刑務所での食品指導監査の立ち入りに同行したり、公共用水域監視調査のため河川採水に行ったり、動物愛護について学んだり貴重な体験をさせていただきました。また結核審査会への出席し、接触者の感染・発病リスク評価、接触者健診の優先度の決定過程の見学や、難病患者さんの自宅訪問、地域の乳がん講座に参加し、普段病院で携わる医療とは違った角度から医療をみることができました。

短い期間でしたが、学びが多い研修になりました。

松江赤十字病院での研修報告



2年次研修医 山田 麻里江

11月の1ヶ月間、松江赤十字病院の膠原病・腎臓内科で研修をさせて頂きました。松江市内立病院には膠原病内科・腎臓内科の標榜がないこと、また、私の両親が透析医療に携わっていることから興味をもち、松江日赤での研修を希望しました。

松江赤十字病院では、松江市の腎臓病の患者さんを一手に引き受けており、蛋白尿や血尿などの検診異常の精査や糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、多発性嚢胞腎、腹膜透析の導入や腎移植後のフォローなど様々な症例をみることができました。腹膜透析導入の際には、合併症のリスクを減らすために、内科の先生が直接手術を行っていたことがとても印象的でした。また、指導医の先生の話はとても分かりやすく、ZOOMでの講演を聞く機会もあり、山陰における腎代替療法の現状についても非常に勉強になりました。松江市内立病院では腎臓病の患者さんに接する機会は減りますが、専門医へのコンサルトのタイミングなどを考慮し、今後の診療に生かしていきたいと思っています。



研修医の皆さん、コロナがなかなか終息する気配がなく閉塞感の続く中、日々の忙しい診療おつかれさまです。なかなか地元へ帰省できなかつたり、みなでお酒を飲みながら愚痴ったりなんてこともできず、ストレスが溜まっていませんか？

こうした状況下にあっても、今いる研修医の先生は誰もが明るく健康的で、人柄も良く、非常に好感が持てる先生ばかりです。

私も医師になってから 20 年以上経ちましたが、当時は今のようなきちんとした研修体制が整っておらず、自分の専門科以外のことを実践的に学ぶ機会がほとんどありませんでした。当然 Amazon はまだ存在せず、鳥取や松江にいた時は医学書を扱っている本屋さんもなく、教科書を入手することさえも一苦勞でした。今ではどこにしようともスマホさえあればあらゆる情報や知識は瞬時に共有できます。

海外の論文もタイムラグなく読めますし（しかも DeepL にコピペすればほぼ完璧に和訳してくれます）、内視鏡の達人技も YouTube で見放題、タダで学べます。さらには学会やセミナーも Web で開催されるようになり、遠くまで移動する時間とお金を同時に節約できるようになりました。インターネットの恩恵で、都会ではなく地方にいるディスアドバンテージがどんどん解消されています（だから皆さんもずっと山陰で働いたらどうですか？ということですよ）。

いろいろ便利になった一方で、医学の進化にまつわるこんなデータがあります。医学知識が 2 倍に増えるまでの時間（タブリングタイム）は、1950 年には 50 年かかっていたものが、1980 年には 7 年、2010 年には 3.5 年となり、2020 年はわずか 73 日になるそうです（Trans Am Clin Climatol Assoc. 2011 ; 122 : 48-58）。のんびりぼんやりしていると、あっという間に時代の潮流から取り残されてしまいます。要領よく勉強しないとイケません。これからのドクターは大変ですね。

最後にアドバイスですが、ヒポクラテスは「医学しか知らない者は、医学について何も知らないのと同じだ」と言ったそうです。つまり、若い時から医学以外の分野にも興味を持ちいろいろと教養を手に入れましょう。他職種の人とも積極的に交流して、多様な価値観を身につけてください。きっと役に立つと思います。

偉そうに長々書き連ねましたが、一番伝えたいメッセージは、「一緒に当直する時は助けてね、頼んだよ」ということです。よろしくお願いします。

新しい年が始まりました。さらに成長できるよう頑張っていきましょう。

令和3年度第2回CPC(臨床病理検討会)を開催しました

令和3年11月24日(水)にCPCが開催され、院内からたくさんの方にご参加いただきました。

今回の症例は「Trousseau 症候群治療中に急変した1例」と題して発表され、指導医の先生方から様々なご意見等をいただくことができ、さらに学びを深めることができたのではないのでしょうか。発表された先生方、おつかれさまでした！



松江市立病院
Matsue City Hospital

〒690-8509
島根県松江市乃白町 32 番地 1
TEL(0852)60-8000 (代)
FAX(0852)60-8005